

リーダーシップは、

OSではなく

アプリみたいなもの

かもしれない。

——と言われても、「なんのこっちゃw」と

ワケがわからなくなるかもしれんが、

この本は「リーダーのための本」という堅いものではない。

クラスの学級委員になったり、

修学旅行の班長になったり、

なにかのリーダーになったり、

本当は、リーダーシップは、

あらゆる人にとって、すごく身近なものだから。

だからみなさんが、

リーダーシップという「重力」から

解放されてほしい、

身がまえ、もっと気楽に、自由に、

リーダーシップを楽しんでほしい、

と考えて書いてみた。

あ、そういえば、

リーダーになるのに、資格っていらなくないか？

正解がないのに、「リーダーとしてこうあるべきだ」

という重力みたいなものに、引っ張られてるんちゃうか？

自分の周り360度、重力がない宇宙空間。

無重力でふわふわ漂っているようなものだ。

ほな、自分自身が
引力を持てばええやん。

この本を読み終えたときに、

なぜ「無重力リーダーシップ」というタイトルをつけたのか、
わかってくれるとうれしい。

肩の力が抜けて、もっと気楽になっていて、

読む前よりも、人生がもっと楽しくなっているだろう。

いざ、「無重力リーダーシップ」の世界へ。

無重力
ZERO GRAVITY
リーダーシップ
LEADERSHIP

リード・イノベーション
代表取締役

磯谷幸始

Yukiharu Isoya

はじめに

リーダーシップという「宇宙」へようこそ

さて、突然だが、あなたが「リーダーシップについての本を書いてほしい」と言われたらどうするだろうか？

ぼくも正直、そう言われて困った。リーダーの経験はそれなりにある。立命館大学アメフト部時代には大学史上初の日本チャンピオンになったこともあるし、チームを崩壊させた「しくじりリーダー」だったこともある。日本IBMでは27歳からマネジメント職につき、現在もなおマネジメント職——リーダーシップを發揮する仕事をやっている。そんなぼくも、突然「リーダーシップについての本を書いてほしい」と言われ、こうして困っている。

それはなぜか？——なぜなら、いまの時代にぴったりハマる答えがない気がするからだ。

多くの人は、この答えを手に入れようと、本を読んだりネットで調べたり

SNSや動画を見たりするだろう。リーダーシップについての本なら、古くはローマ時代の『自省録』に始まり、マキャベリにナポレオン・ヒルにドラッカー、松下幸之助に稲盛和夫など、さまざまな「名著」がある。いまやネットを見れば、いろいろな人が「こうあるべき」と持論を述べている。それでも、答えにたどりつくのは無理なのではないか？——まるで、宇宙をさまようみたいなものだ。

普通の本ではあまりやらないことだが、ぼくはビジネスコーチなので、問いを立てながら進めていきたい。

さっそく一つ目の問いだ。次の四角に入る言葉はなにか。

Q

Aー時代のリーダーシップとは、



である。

みなさんはこの問いに対し、どんな答えを出すだろうか？ さあ、この答えを知りたいなら、続きはウェブで……と、いつもなら言うところなのだが、これ

はあくまで本なので、この問いを読者のみなさんと考えていきたいと思う。

この問いの前にまず考えたいのが、「リーダーシップとはなにか？」ということだ。

本書では、リーダーシップとはなにか、どうすれば得られるのかをみなさんと一緒に考え、「無重力リーダーシップ」という、AI時代に求められるリーダーシップの新しいあり方について、ぼくなりの考えを話していきたい。

ドラッカーや松下幸之助や山本五十六は「こうしなさい」と語っている。でも、いまの時代にそれが効くのだろうか？——昭和の時代はよかったかもしれない。五十六さんの考えもそれは大事だと思うが、本でもネットでもメディアでもリーダーについて情報があふれているこの時代、五十六さんの言ったリーダーシップ論がいいのかと考えてみると、参考にはなるかもしれないがそうではないかもしれない。

リーダーシップとは本来、もっと自由でいいはずだ。なのに、自由だからこそ不自由さがあるようにぼくは思う（これについては、本章でくわしく話していきたい）。

にもかかわらず、多くの人は「こうあらねばならない」「こうしなければならぬ」という重力にとらわれている。

でも、その「リーダー像」って正しいのだろうか？

いろいろと謎かけみたいなの質問をしてきたが、先ほどの「AI時代のリーダーシップとは」である。という問いの答えは、この本を最後まで読んだときに、あなたらしい解をつくっていただきたい。

本書の随所には、みなさんへの問いをちりばめている。ちゃんと解答欄もつくつたので、いちど立ち止まってその問いと向き合って、あなたなりの解を書き込んでうで次に進むと、いろんな気づきがあるよ。

みなさんが本書を通じて「無重力リーダーシップ」というアプリを、自分のOSにインストールできるように、そしてもつと気楽に、かまえず、楽しくリーダーシップを発揮できるように——いよいよ「無重力リーダーシップ」の話を始めていこう。いったん最後まで読んでみて、合わなければアンインストールした

らしい。

人材開発、すなわち人の教育を本業としているぼくは、クライアント経営者たちと教育論について議論することもしばしばある。そこで、「日本の教育を変えたほうがいい」という声を多く耳にする。

ぼくは決していまの教育がダメといっているわけではなく、もっとみんなが主体的になればいいなと思う。そのためには、リーダーシップが必要になってくる。だから、リーダーシップというものをもっと気軽に発揮できるようにしたい。子どもの頃から「無重力リーダーシップ」というアプリをインストールできれば、それが叶うのではないかと思う。

学校の先生とかどこかの社長とか誰か偉い人の言った「リーダーはこうあるべき」なんて押しつけを受け入れるのではなく、自分でアプリに触れておくことが大事なんじゃないか（ぼくは「すべき」という押しつけに対し、「インタラクティブにコミュニケーションしたらええやん」と思っている）。

「無重力リーダーシップ」という考え方を知れば、きっとなにかが変わる。だ

から本書によって、一人ひとりがリーダーシップを自由に発揮できる社会になったら、日本という国はもっとよい国になるのではないかと思っている。

「無重力リーダーシップ」とは なにか？

「リーダーシップ」からどんな言葉が想像できるだろうか？…………… 18

なぜ、「リーダー像」は2000年間同じなのか？…………… 28

「リーダーシップがある人」とは、どんな人なのだろうか？…………… 36

なぜ、「リーダーシップ」に資格がないのか？…………… 44

「リーダーシップ国家資格」があるなら、

検定試験にどんな問題が出るだろうか？…………… 52

「自分と違うタイプの人」に対してリーダーシップを

発揮するには、どうするか？……………58

第 2 章

「無重力リーダーシップ」を実装する ——ブラストとモメンタム

リーダーが変われば、なにがどう変わるのだろうか？……………68

「世界に一人のいまのあなた」を

形づくった大きな出来事はなにか？……………78

「あなたらしき」を形成した人は？……………86

あなたにとって、「いい流れ」を生み出したブラストはなにか？……………98

ブラストを起こすにはどうすればいいか？……………106

「かんでいる人」の力を抜く方法とは？……………118

「いいモメンタム」の要因はなにか？……………122

「無重力リーダーシップ」が 社会を変える

なぜ、あなたは働くのか？……………134

「自分が成長できる会社」とはどんな会社なのだろうか？……………144

ビジネスの「勝ち」とはなにか？……………150

あなたの人生における K G と K P はなにか？……………162

リーダーはメンバーに対して、

「チーム優先で」と言うのか、「自分優先で」と言うのか？……………172

なぜ、学校で「リーダーシップの授業」が行われないのか？……………178

— おわりに —

無重力リーダーシップのアプリをダウンロードすれば、

人生はもっと楽しくなる……………184